



森林技術・支援センターは、全道を活動エリアとして、地域で求められる林業技術の開発・普及に取り組んでいます。

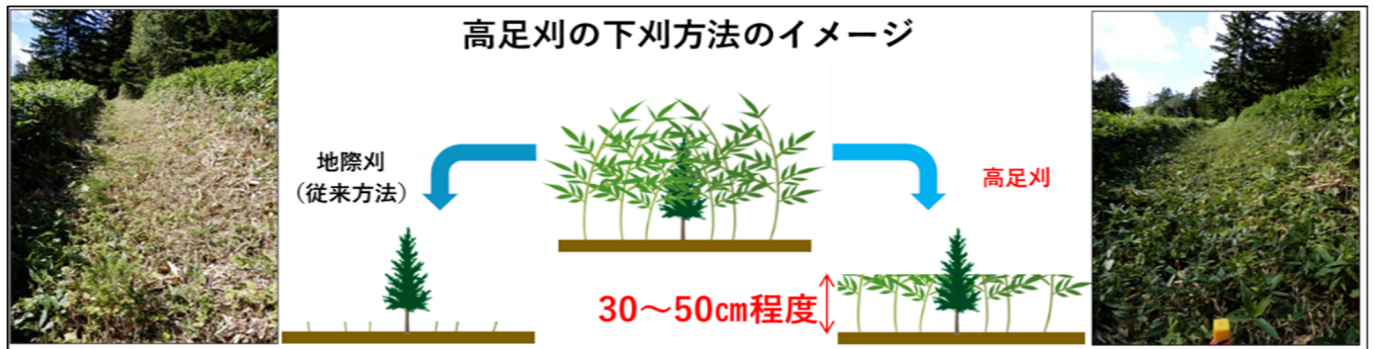
今回は、盛夏期の厳しい気象条件下で行われる下刈り作業について、これまで行われてきた「地際刈」よりも簡素な「高足刈」の効果について紹介します。

取組の背景

下刈作業は、植栽木の健全な生育を図る上で重要な保育作業ですが、他の作業が高度に機械化されるなかで最も省力化が難しく、現在でも夏期の気象条件の厳しいなかでの刈払機を使用した人力作業が主体となっています。人工林資源の充実により主伐再造林の増加が見込まれるなか、初期成長に優れた苗木の導入による下刈回数の削減や、重機等の導入による省力化に向けた取組が進められています。また当面は人力作業が主体になることが予想されます。

地際刈と高足刈の違い

「地際刈」は、植栽木周辺の草本類を地際から潔癖に除



去する、これまで行なわれてきた下刈方法です。

これに対して「高足刈」は、草本類の先端部(地際から30cm～50cm以上の部分)を刈り払うことにより、植栽木の先端部を中心とした光環境を整える下刈方法です。

高足刈の効果と留意点

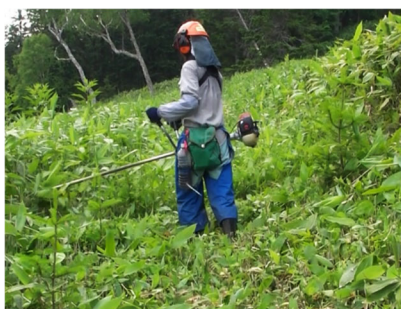
「高足刈」について、以下の効果等が確認されました。

【効果】

- ・ 植栽木の成長は、地際刈と同程度以上の効果が期待。とりわけ伸長成長が優位。
- ・ 作業工程は、地際刈より1～3割向上。
- ・ 苗木の損傷リスクは、地際刈と同程度。

【留意点】

- ・ 足下の視認性に劣る(転倒



高足刈の作業の様子

地際刈と比較した高足刈の効果

下刈形態	植生回復	樹高成長	根元径成長	枯死率	下刈工期	下刈損傷
全期間刈払	○	◎	○	◎	◎	○
1年省略	—	○	×	○	—	—
隔年刈払	×	○	×	×	×	×
2年省略	—	◎	×	×	—	—

◎→地際刈より優れる ○→地際刈と同程度 ×→地際刈より劣る

リスクに留意する必要があります) これにより、現在行われている潔癖な下刈は、植栽木の健全性の確保の観点からは特に求められていないということが判りました。

また、高足刈の効果は、従来の下刈作業の機械化や、その作業方法の確立にも役立つものと期待しています。